

まな Viva!

「京都丹波 まな Viva!」は、学校と先生を応援する南丹教育局の学びのニュースです。

市町教育委員会との連携事業「授業実践講座」を開催しました!

各学校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について取組を進められていることと思います。本講座においても、公開授業に基づく授業研究会と先生方の具体的な取組の実践交流から、学びの質を高める授業の在り方について協議し、参加者の学びを深めました。その内容を紹介します。

1

授業実践講座 小学校国語

授業実践:亀岡市立詳徳小学校 國府 敦子 教諭

① 授業実践の紹介 第1学年 単元名「じどう車ずかんをつくろう」

～「読むこと」から「書くこと」へ～

- 「読むこと」で何を学ぶのか、「書くこと」で何ができるようになるのかを明確に
- 「書くこと」における指導事項のつながりを意識

国語科 指導事項「B 書くこと」	題材の設定 情報の収集 内容の検討 構成の検討	考えの形成 記述	推敲	共有
じどう車ずかんをつくろう お家の人にみてもらう じどう車をしらべよう このじどう車にきめた	「じごと」と「つくり」を たしかめよう	「じごと」と「つくり」のじゆんに じどう車カードをかこう	ことばのつかいかたは あっているかな よむ人につたわるかな 「そのために」が じょうずにつかえたよ	「知識及び技能」 との関連 情報の扱い方に 関する事項

【単元計画】(全7時間)

<p>【第1次】</p> <p>1 学習の見通し</p> <p>書く目的 相手意識</p>	<p>【第2次】</p> <p>2 調べたものの中から図鑑にしたい 自動車を選ぶ</p> <p>3 グループ分けを通して、 「じごと」と「つくり」の関係を見直す</p> <p>4・5「じどう車しょうかいカード」を書く</p>	<p>【第3次】</p> <p>6 章立てし、図鑑 を完成させる</p> <p>7 自分の文章の よさを見付ける</p>
---	--	--

【読むこと】 「じどう車くらべ」

- ◇学習のゴール(図鑑を作ること)を意識して読む。
- ◇文章中の重要な語や文を自分で考えて選び出せるように、少しずつステップアップ。
- ◇言葉に着目 動作化

◇関係する図書が読める環境
(京都府立図書館との連携)



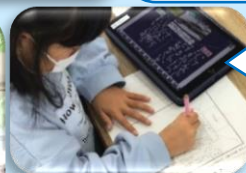
本時(3/7)「じごと」と「つくり」に着目してカードを分類
→友達のカードのよさに気付く→自分のカードの見直しへ

- ◇ICTの利活用。思考ツール(Yチャート・Xチャート)を用いて、自分の考えやグループの考えをまとめる。
- ◇「情報と情報の関係」(知(2)ア)と関連させる。



- ◇問いと答えの関係、「つくり」と「じごと」の論理関係、説明の順序を捉えさせる。

問い・答え・答え・答え
「うみのかくれんぼ」といっしょや!



- ◇教科書の文章に戻って確認。
- ◇自分の文章を見直す時間を確保。

完成!

【書くこと】 「じどう車ずかんをつくろう」

② 研究協議

公開授業に基づく授業研究会では、「児童が主体的になる単元デザイン」「言葉への着目のさせ方」「シンキングツールの活用」「学び合える集団づくり」等、国語の力が身に付く授業づくりについて、活発な意見交流がなされました。また、実践交流では、デジタル教科書を用いた実践例、板書やワークシート、児童の成果物等を紹介し合い、教材研究の大切さや面白さを実感するとともに、指導事項の系統性をさらに意識し、生きて働く力につなげていくことの重要性を改めて確認することができました。



じどう車ずかん

① 授業実践の紹介 第6学年 単元名「図形の拡大と縮小」

授業実践にあたり、コアメンバーとして大切にしてきたこと

学習意欲を高める授業 「学習課題の工夫(日常生活と結び付ける)」

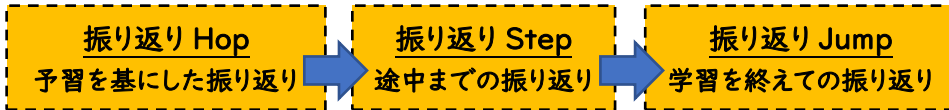
児童が主体者となる授業 「問題解決的な学習」「思考のある学び」

授業を通して子ども達を成長させたいと願う授業者の熱い思いに寄り添い、コアメンバーで何度も協議を重ねました。

【単元計画】(全10時間)

- 1 導入 単元課題をつかむ
- 2 拡大図・縮図の性質
- 3
- 4 } 拡大図・縮図の作図
- 5 }
- 6 }
- 7 拡大図・縮図の関係のまとめ
- 8 これまでの振り返り
- 9 **縮図の利用(本時)**
- 10 学びのまとめ

児童の主体的・対話的で深い学びを実現するために、振り返り等を生かして話し合い活動を充実させる「安詳スタイル」(振り返り Hop Step Jump)を軸に授業を展開



本時(9/10) 予習を基に「縮尺」の定義を把握する⇒縮尺を利用し自分の決めた場所の直線距離を求める⇒適用題でさらに生きて働く知識・技能へつなげる

生活と結びついた課題設定

「学校から〇〇までの直線距離は？」
実際の生活場面を用いることで、子どもたちの学習意欲を高める。



既習事項を生かす

「関係図が使える」ことを全員で確認し、解法の見通しをもたせる。



ツールとしての ICT

ねらいに合わせて、自分たちで判断してタブレットを使用する。



グループ学習

対話によって自分の考えが深まったり、広がったり、整理したりする。



授業の主体は子ども

大事なところを子どもに考えさせる、言わせることを意識し、「教わる授業」から「学びとる授業」への転換をはかる。

② 研究協議

公開授業に基づく授業研究会では、「主体的に学ぶ問題解決的な課題設定をしたか」「見方・考え方を働かせ、楽しんで思考・表現する活動を取り入れたか」等について話し合いました。「教わる授業」から「学び取る授業」への転換が求められる中、本研究協議でもコアメンバーが進行を務め、学び取ったことを協議しました。また各校からの参加者も、研究授業と同じ領域の実践を持ち寄り交流するなど、皆が主体的に学び合うことができました。

新学習指導要領に対応する 授業改善

「学んだ知識・技能をどう活用させるか」を重視した授業を展開

→未知の状況に対応できるか 思考の活性化

授業のポイントを焦点化

そのための時間をどう生み出すか

→履修の経量(単元・本時) タイムマネジメント 家庭学習連携

主体は誰にある？

教師が丁寧すぎるナビゲートをしなない配慮

→「先生と一緒にできる」「ひとりではできない」

児童・生徒の印象に残るめあて達成のための対話的活動の導入
成長を自覚できるふりかえり

3

授業実践講座 中学校理科

授業実践: 亀岡市立詳徳中学校 光枝 良祐 教諭

① 授業実践の紹介 第1学年 単元名「光による現象」

- 理科の見方・考え方を働かせ、学びの質を高める学習活動の実現
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をめざした授業に

- 生徒が主体となる学びにするために
- 生徒の思考が活性化する授業を展開するために



- 既習事項を活用し、予想・仮説を立てる。
- 科学的に探究しようとする活動を取り入れる。納得解を得るためには話し合いの時間が必要。

【単元計画】(全8時間)

- 1 光の進み方と反射の規則性
- 2 鏡の反射で見える像
- 3 境界面での光の通り方(予想)
- 4 } 空気と水の境界面での光の進み方
- 5 } (反射・屈折の規則性・作図)
- 6 }
- 7 } 凸レンズのはたらき
- 8 } (性質・像の特徴・作図)

本時(3/8) 現象に触れる→現象が起こる理由の推測→考えの交流・深化



見えなかったコインが、水を入れていくと浮き上がって見えてきた。なぜ?

既習事項を使って仮説を立てる。
(光の直進、入射角、反射角)

グループワークで実験をしたり、何度も話し合ったりしながら学習を深化させる。

教師はできるだけ話さず、生徒の意見をつなげることを意識した展開に。



対話によって
「変容しているか。」「納得解が得られているか。」を見極めて、評価と指導を繰り返す。



② 研究協議

公開授業に基づく授業研究会では、「探究の過程での仮説の意義」や「教師の役割」、「指導内容が多い中、教えるだけでなく生徒が学びとれるような授業をデザインするにはどうしたらいいか」を話し合いました。「既習事項を使って考えようとする生徒の姿」「ねらいを明確にした授業」「知識・技能が生きて働く展開」「生徒の意見がにつながる展開」など、授業づくりで大切にしたいことを共有しました。

また、実践交流では、デジタル教科書やロイロノートの有効活用の工夫、板書の大切さや教材教具の工夫、授業のビデオ撮影など授業力向上に向けた様々な取組を交流しました。授業改善に向けて、様々な角度からアプローチを進めてくださっていることがわかりました。



① 授業実践の紹介 第2学年 単元名 PROGRAM5「Work Experience」

実践テーマ： 逆向きから目標を作成
 単元を学んだ後の生徒の姿を想定し、その実現に向けた目標を設定する
 年間計画—学期計画—単元計画・ゴールの設定—日々の授業実践へ



児童生徒の実態を
踏まえてゴールを
設定

ゴールの姿を示すことで
それぞれの活動の目標が明確になる
だから「この活動で大切にすべきこと」も
明確になる

毎時の振り返り(ゴールへの道のり)を残す
→ゴールしたときに 変容を見とることができる
「できるようになった!」



【単元計画】(全8時間)

- 1 単元内容説明・ゴールの共有
- 2 新出文法の導入
- 3 言語活動による活用
- 4
- 5 本文内容を把握
- 6
- 7 パフォーマンス課題準備
- 8 パフォーマンス課題発表

帯活動に
よる
パフォー
マンス
課題へ
の準備

生徒の姿
→どんな力
を身に
付けるか

本時(2/8) look+形容詞 become+名詞(形容詞) 導入
 指導の流れ： 表現の導入 ~ パターンプラクティス ~ スキット発表

◇単元ゴールに向けたスモールステップを毎時間設定。自分が伝えたいことを表現する練習。



◇ICT を効果的に用いスムーズに導入。
 ◇文脈の中で新たな語い等を確認。既習事項も、繰り返し指導。



◇互いの発表を大切にできる雰囲気。
 →日頃からの学級経営の大切さ。
 ◇発表・修正を繰り返すことでよりブラッシュアップ。→「さっきよりできた!」が自信につながる。

◇マッピングで発想を広げ、メモをもとに対話を続ける。活用する中で表現を習得。



授業改善
できること
から、まずは
やってみる!

② 研究協議



公開授業については、KPT 法により、研究協議を行いました。単元ゴールにつながる指導内容の工夫について、効果的なグループ活動について等、活発な意見交流がなされました。その後、2 学期の実践交流を行いました。タブレットを用いることで、具体的に交流することができ、どの先生方も互いの実践に熱心に耳を傾けていました。